

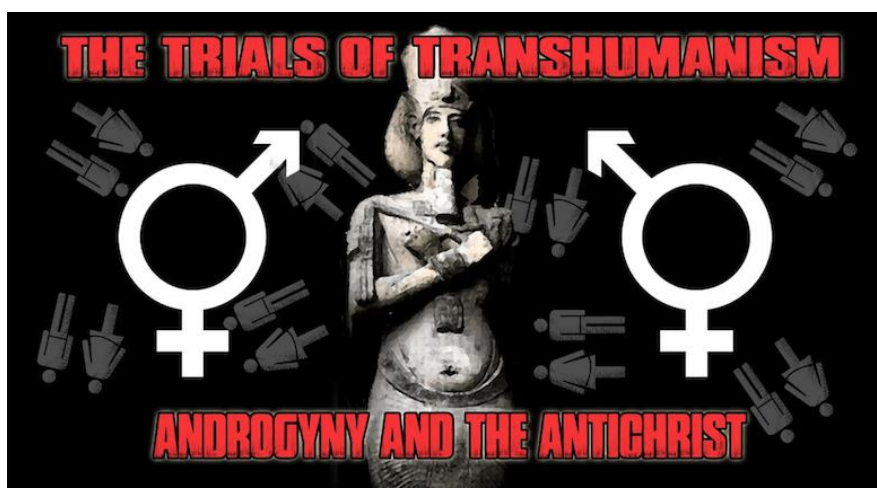
人間改造 (transhumanism) 作戦という陰謀：アメリカ犯罪の根

人が知るよりもっと深く幅広い

<http://stateofthenation.co/?p=163730>

SOTN

April 14, 2023



(人間改造という陰謀犯罪：両性具有と反キリスト)

トランスヒューマン計画＋性転換心理作戦＝人間改造作戦

アメリカ合衆国は、陰險なやり方で、サタンとその多くの眷属（ハザール陰謀団とも呼ばれる）によって、1913年の連邦準備銀行法以来、彼らの人間改造実験の主たる実験室として設立された。彼らの全国的な、性転換心理作戦の強化が実現されていくと共に、ハザール族の完全にサタンの目標となっているのは、アメリカ社会を、世界で初めての性転換趣味の地獄に、完全に改造することである。

いったいどうして、基本的にキリスト教的な国家が、これほど急速に、性転換社会に改造されつつあるのだろうか？ これは高度に組織された、極端に隠微な実行計画がなければ、理解できないことだ！

あらゆる所で人々が、極端に複雑で入り組んだ、陰謀の計画に気づくことなく、我々の傷つきやすい子どもたちを、アメリカ中で騙して性転換させるなどということは、考えられないことではないか？

しかし、その真の計画者たちを突き止めることは、実は簡単なことなのだ。

連邦準備制度の設立によって、ハザール（マフィア）陰謀団は、無際限の財源を自ら放出し、その財政力によって、彼らが望んでやまない、どんな犯罪的な冒険をも実行することができた。彼らはどんな不正な闇の計画でも、思うがままだった。FED（連邦準備）がアメリカの納税者のドルを使って、払わせることができたからだ。

ハザールの第一の仕事は、常に徹底的にキリスト教徒を破壊し、アメリカ共和国がもはや重要なキリスト教国として存在しないように、道徳的な卑劣さに沈み込むようにすることだった。そしてそれは成功した。



アメリカ人民に対して犯した彼らの多くの犯罪の中でも、文化マルクス主義アジェンダの実行が、ハザール陰謀団にとって、内部からアメリカを破壊するには、唯一最も重要なものになった。何世紀も続いた犯罪的陰謀が進行していく間にも、この文化マルクス主義という大黒柱は、もちろん、急速に強化されていく性転換（Transgender）心理作戦だった。

キーポイント：ハザール族たちは、そのやり方が極めて隠微であり、それによって彼らは、数十年にわたって、50州すべてにおいて、この破壊的なマルクス主義を実現させた。それから、彼らの一番の「陰なき狙撃者」（Manchurian Candidate）である 2009 年の、

ホワイトハウスの**バラク・オバマ**を、憲法に違反して指名することによって、彼らの悪臭を放つ計略が、押し入れから出てきた。(訳者：オバマは現に公的場面で蠅にたかられた。) 彼らは意図的なスピードで「人間改造作戦」の決行を開始し、アメリカは文字通りオバマ化 (Obamanation) した。オバマは、ハザール陰謀団の国際司令本部であるシカゴのCIAの、培養皿で創造されたことに注意せよ。完全に墮落した副大統領ジョー・バイデンと共に、彼らはアメリカ社会の組織の、修復不能の分裂を大きく加速させた。

ひとたび、オバマの監視の下で、2015年にアメリカ最高裁によって、不埒にもゲイの結婚が承認された後は、すべては一方的な下り坂だった。性転換心理作戦は、迅速にひろがり、アメリカ市民は、毎週のように大きなショックを受けて、ほとんど無人の野を行く、悪魔的なジャガーノートに轢き殺されていった。

不可解な性転換心理作戦が、これほど急速に展開することができたのは、**ハザール陰謀団**が、パズルの重要なピースのすべてを、用意していたからであった。アメリカの国庫からの、何兆という組織的な彼らの盗みは、アメリカ連邦政府内部や、アメリカ企業全体で、重要な地位や権力、影響力をもつあらゆる人々を、買収、賄賂、ゆすりによって動かすことを、た易いものにした。そうでなければ、どうしてそれが、これほど速く、これほど遠くへ拡散したのかがわからない。だからこそ人々は、至る所で団結し、本物の陰謀家たちをその場で逮捕し告訴しなければならない。そうしないと彼らは、この大逆の人間改造暴政に乗っ取られ、取り返しがつかなくなるであろう。

もちろん、背景で同時に進行しているのは、人間改造アジェンダのきわめて急速な敢行である。この恐ろしくひね曲がった、地球的な企ての究極の目標は、不死の人間を現実に創り出すことで、それは、ただひとりサタン自身が、常に求めてきた対象であろう。結局のところ、あなたがもし、何千年間も、ジェノサイドを次から次へと繰り返しながら、あなたのやってきたすべてが、陰謀を目論むことであるなら、そのような悪なる存在は、どういうわけか、肉体的に死なない者になることで、創造者の要望を満たしはしないことを理解せよ、ということである。

正確なところ、どんなジェノサイドが、ハザール陰謀団によって実行されてきたのだろうか？

ハザール陰謀団によって実行されてきた、綿密に計画されたジェノサイドの縮約されたリスト

<https://stateofthenation.co/?p=161174>

第2次ボア戦争
日露戦争
第6次コレラ・パンデミック
メキシコ革命
第1次および2次バルカン戦争
アメリカのジェノサイド
第1次世界大戦
ボルシェビキ革命
ロシア市民戦争
1918 スペイン風邪パンデミック
世界大恐慌
Holodomor ジェノサイド
中国市民戦争
スペイン市民戦争
第2次世界大戦
ザ・ホロコースト
1次インドシナ戦争
南北韓戦争
仏-アルジェリア戦争
イスラエルの独立戦争
1次スーダン市民戦争
1956 スエズ危機
アジア・インフル-パンデミック
キューバ革命
1967 6日戦争
Yom Kippur 戦争
中国文化大革命
1982 レバノン戦争
2次レバノン戦争
ソ連-アフガニスタン戦争
ベトナム戦争
1968 香港インフル・パンデミック
1973 石油危機
HIV/AIDS パンデミック
カンボジア・ジェノサイド

ルワンダ・ジェノサイド
1次および2次チェチェン戦争
ブラック・マンデー October 19, 1987
1990年代の日本銀行業危機
1994メキシコのペソ危機
ユーゴスラビア戦争
イラク戦争
1997アジア財政危機
2000ドットコムバブル崩壊
9/11テロリスト攻撃
アルゼンチン債務不履行
テロに対する戦い
アフガニスタン戦争
シリア戦争
リビア戦争
2007不動産市場崩壊
2008株式市場倒壊
2009グローバル財政危機
ウクライナ戦争
COVID-19(コロナ)パンデミック
Covidスーパーワクチン接種アジェンダ

[訳者 Greatchain 注]

ここに、日露戦争あたりからウクライナ戦争までの、「ハザール陰謀団」(これについては別稿が必要)に帰することができる、世界的な犯罪行為がリスト・アップされている。ここには「サタン」という言葉が数回使われていることに注目せよ。サタンというものの実態と実在(目に見えるかどうかは別にして)を想定することなしに、この世界を理解することはできないと、我々は常に言ってきた。それがウクライナ戦争にも、ワクチン接種にも全部つながっている。サタンとは、神と神の創った人間や自然界に敵対することを、宣言するもののものであって、ここでいう Transhumanism という概念も、そこから理解できる。「サタンとか神とか、馬鹿々々しいことを口にするな」というような、メディアの前提(唯物論的前提)は、初めから間違っており、したがって初めから戦う相手を取り違えている。ウクライナについてもワクチンについても、見当違いをしてお

り、しかもそれがわかった上で見当違いをしている。これは犯罪行為で、**私が許せないのはそこである。**

ここで「我々の傷つきやすい子どもたちを、アメリカ中で騙して性転換させる——そんなことが許せるか？」という言葉が出てくる。プーチンが Valdai 討論会で言っているのは、まさにそれで、ロシアはそういうアメリカの墮落から、青少年を守らねばならないと言っているのである。ひとつ聞きたい——プーチンは無責任な減らず口を叩いていますか？

Transhumanism の主導者たちは、「今からの時代は、人間が新しい人間を自分の力で創り出す時代だから、神は黙っている」と言っている。そのためには何べんでも、いくらでも人を殺してして実験できるし、すべきだと考えている。これが 2012 ロンドン・パラリンピックのメッセージである。世界経済フォーラムの Klaus Schwab 会長もそう考え、AI の力で人を創り管理できると信じている。

ここにゼレンスキーの名は出てこなかったが、彼もバラク・オバマと同じように、CIA によって創られ操作されている人間である。ゼレンスキーもオバマと同じく、神など信じないどころか、ウクライナ正教もロシア正教も破壊し、聖職者は追放せよと言っている。ゼレンスキー政権がウクライナの救世主で、ロシアは悪魔だと言いつける人々は、この一事だけでも考えてみるがよい。あなたもやはり、神もサタンも馬鹿げているが、どちらかと言えば「サタンの方がよさそうだから」サタンにすると言うか？ 信仰とは魂を売るか売らないか、自由を放棄するかしないかの問題で、金銭や利益の問題ではない。ウクライナの人々がロシア人と団結して、ゼレンスキー政権と戦っている様子が報道されている。<https://www.rt.com/russia/574274-kiev-perchersk-lavra-vs-ukraine/>